



アーモンドの苗木を植える

## 点が線となり、 線が輪郭をなす

ある篤志家の方より、日光市、鹿沼市に土地を寄贈していただくことになりました。合わせて200坪ほどの土地ですが、どのように活用できるのか、あれこれ考えてみました。地方出身とはいえ、都市部で育った私には、山林の土地の活かし方など、なかなかよいアイデアありませんでした。

ところが、その土地の近くに、7年前から懇意にしていた人がいたので、少し相談してみました。するとやはり、地方の山間部で育った彼からは、それなりのアイデアが出てきたのです。

さっそく、出てきたアイデアに沿って、アーモンドの木を植えてきました。アーモンドは、イスラエルでは神の目が注がれていることを象徴する、いわゆる祝福の木です。

その友人と出かけて行き、苗を植え始めたのですが、彼はときどきと隣家との距離を測って適当な位置を定め、野良仕事に慣れていない私がやる作業とは違って、実にしっかりと植え込み作業をこなしてくれたのです。

帰り道、そんな彼の動きと行動力を思い出しながら、7年前の出会いを考えていました。その時には、彼とこのような活動を一緒にするとか、また、彼と活動を共にする場を提供されるなど、全く想像しえないことでした。ただ、私のいつもの考え方の癖として、この出会いが、どんな未来を産むのだろう、とは考えていました。

私たちの人生には、その時には、特別な意味も感じない出会いがあるものです。しかしそれら「点」に象徴されるような事柄が、やがて時の経過とともに、「線」となって結びついていくことに気づかされることがあります。そしてさらに時間が経てば、それが輪郭を現して、この時のためにこうした積み重ねの時があったのか、と不思議な納得を得ることがあるものです。

大切なことは、ビジョンを描きながらも、地味なことを丁寧に、大切に一つ一つ積み重ねていくことなのだろうと思います。私たちのなしている事柄一つ一つは、意味をなさない点に見えることがあっても、そうした点がやがて、時間と共に線となり、一つの成果として輪郭を現してくる、そう信じていたいものです。点から線になる過程には、ずいぶんと時間を感じさせられるところがあるかもしれませんが、あきらめずに、やりきる場所に成果はある、と私は思うのです。(HFI代表 福井誠)

### CONTENTS

- スタディーツアーのお知らせ …P.2
- フィリピン活動報告 …P.3  
MHDSO・MHCPD
- 被災地支援の現場から  
「目に見えない放射能と向き合って」  
岩手県 若井和生さん …P.4
- 「共に支え合う」  
ゴスペルシンガー  
Migiwa さん …P.5
- 日本事務局から  
寄付金控除について  
ジョイ・ジョイ・ブック 他 …P.6

